

平成 29 年度

# 1 自己評価及び外部評価結果

事業所名：グループホーム ときわの里（すずらの家）

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500147		
法人名	株式会社福伸		
事業所名	グループホームときわの里（すずらの家）		
所在地	〒023-0826 岩手県奥州市水沢区中田町4番19号		
自己評価作成日	平成29年6月9日	評価結果市町村受理日	平成29年9月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/1/index.php?act=ion_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=0391500147-00&amp;PrEfCd=038&amp;VerSiOnCd=022">http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/1/index.php?act=ion_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=0391500147-00&amp;PrEfCd=038&amp;VerSiOnCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号		
訪問調査日	平成 29年 6月 20日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・利用者様が自分らしく生活でき、常に明るい笑顔で過ごせるようスタッフ一同心がけサービスを提供しています。
- ・安全管理の徹底に努めています。(緊急・災害時の連絡体制・避難訓練の実施、ALSOK加入)
- ・地域との交流で関係を深めています。(ホームページ発信)
- ・医療連携体制を整え、利用者様の安心できる生活を支援しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・事業所のホームページを開設し、家族や地域に行事や生活の情報を発信している。特に、遠隔地の家族からは、利用者の表情が確認できると喜ばれている。
- ・厚生労働省補助事業の介護ロボット導入支援事業(夜間睡眠時の安心見守り支援を行う)を実施し、利用者の安全な生活の確保に取り組んでいる。また、Wi-Fi環境整備し、介護職員の業務の効率化を図っている。
- ・介護職員、事務職員、調理員等、幅広い年齢層の職員配置がなされ、理念に沿った利用者に寄り添う介護の取り組みが実践されている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会]

事業所名 : グループホーム ときわの里 (すずらの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホール、玄関の目に付くところに表示している。利用者様に寄り添い、のびのび生活できるように努めている。	理念をホールや玄関に掲示しており、利用者も見ている。理念の「寄り添う」実践として、利用者に1日1回声がけをし、難聴の方にはジェスチャーやタッチで、笑顔を引き出すよう職員に徹底している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し地域の行事に参加したり近隣の幼稚園と交流している。また事業所の行事にお招きしたり周辺の散歩を通して挨拶を交わしている。	町内会の、夏祭りや芋の子会に招待され参加している。また近隣の幼稚園の運動会では、利用者の TENT を準備して頂いている。例年7月に、ホームの焼肉会に近隣の方々を招待している。このほか市のきらめきマラソンを沿道で応援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	平成29年4月よりホームページを公開し、地域に向けて情報を発信し理解に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月で運営推進会議を開催し、行政、地域、家族代表者に参加いただき、提案や助言をいただいている。そこでの内容を職員に回覧し、サービス提供につなげる努力をしている。	ホームの外壁に設置している警備会社の警備機器の取り扱いやボランティアの募集等について助言や意見を頂いている。会議に利用者本人は参加していないが、主体性を考慮し参加を検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所に出向き、積極的に協力や助言をいただき、話し合う場を設けている。	介護ロボットの研究事業(眠りSCAN・厚生労働省)に取り組み、市の支援も頂いている。市の介護相談員を受け入れている。地域包括支援センター主催の、認知症高齢者向け青空レストランへの参加を検討している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	サービス向上委員会の部会で内部研修をし、ユニット会議などでも気づいたことや、困難ケースについて話し合い、事業所全体で身体拘束をしない取り組みをしている。	身体拘束については、内部研修やユニット会議などで、センサーマットの使用やスピーチロックについて話し合い、拘束をしない取り組みをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者への対応に気をつけ、職員間で話し合うようにしている。また、入浴時や着替えの際、利用者の身体の変化を見逃さないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加した職員がその内容をサービス向上委員会で報告し、学ぶ機会を持つようにしている。隣のユニットには弁護士の協力をいただいているケースがあるので、話を聞いていきたい。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分説明を行い、同意を得られている。また、面会時など個別に話を聞き、不安や疑問点に答えるよう努めている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	市より、年2回介護相談員が訪問し、聞き取り調査を受けている。そこでの利用者の思いをケアに反映できるよう努めている。また面会時に要望や感想などを聞き、改善できるよう努力している。玄関に意見箱を設け、自由に閲覧可能である。	家族の面会時は、利用者の担当職員が家族から要望や意見を聞いている。外出機会の増加の要望には、個別ドライブで対応する等、出された意見を反映させている。毎月のお便りで、担当者が利用者の状況を知らせている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議での話し合いや気づいたことを提案してもらい、管理者や代表者に伝えるよう心がけている。トップダウンについても全職員で共有できるよう連絡ノートを活用している。	管理者は、ユニット会議での職員の意見等を、業務会議で代表者に提案している。また、その会議の内容を職員に伝達している。さらに職員の意見を聞く機会として、代表者との個別面談を計画している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と職員が職場環境の改善を一緒に考え、整備に努めている。7月より順次、代表者と個人面談を実施予定。就業環境ややりがいなどについて個別にヒアリングを行い改善に努める。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会には随時参加してもらい、スキルアップを図っている。また隣接する特養と合同で研修会や講習会を企画している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホームページを活用し情報の発信を行い、当GHを身近に感じられる取り組みを行っている。また、別のGHのイベントへの参加や、訪問を行い、当GHの取り組みにフィードバックしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族から不安や要望に耳を傾け、24Hシートなどを活用し、本人との関係づくりを図り、安心して生活できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用申し込み時には、当GHIについて説明し、理解していただけるよう努めている。また面会時など、コミュニケーションをとるように努め、話しやすい環境づくりを心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に居宅を訪問し、生活環境の確認情報収集後、必要としている支援を話し合い、サービス提供できるよう心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭きや洗たく干し・たたみ方など家事を一緒にし、共同生活の場を再現できている。また日常会話の中で、生活の知恵などを聞くことで支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、利用者の状況を手紙で知らせ、ともに支えていく関係を築ける努力をしている。また家族等の力を借り、外出や外泊など本人を支えていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人、知人等の面会の折には、落ち着いて話ができるよう配慮している。家族と一緒に馴染みの美容院に出かけ交流を図っている例もある。	ホームページやお便り等で家族に呼びかけられているが、親戚・友人も高齢になり、面会も少なくなりつつある。敬老会・焼肉の会・クリスマス会等に家族を招待し、面会の機会としている。通院時に家族と外食したり、自宅に泊まる方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、レクやホール内での交流を図っている。またお互いにコミュニケーションが図れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中の様子や他施設への情報提供等、できる範囲で協力を努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や行動から、暮らしの意向や思いを受けとめ、希望に沿った支援を心がけている。	日々の会話や行動から、利用者の意向を把握し、支援している。ドライブ等では、全員の外出が少なくなり、本人・家族の意向を踏まえて職員と利用者1~2名での個別ドライブを実施し喜ばれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に訪問し、生活歴や馴染みのある暮らし方など、生活環境を把握するよう努めている。また本人や家族からの情報を職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の意向に合わせた過ごし方を軸にコミュニケーションをとりながら、毎日の行動や状況を記録し、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議で、ケース検討を行い、利用者のサービス計画の意見やアイデアを出してもらっている。また、家族の意向も面会時などに聞き、計画に取り入れている。	アセスメントは担当職員が行い、業務日誌、個別のケース記録、連絡ノート等を参考に、ユニット会議で話し合い計画を作成し、家族・本人に説明し同意を得ている。今後は、本人や家族の参加を得て、計画作成することを検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、個別記録等、毎朝の申し送りで情報を共有し、気づきがあれば計画の見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に変化があれば、その都度、要望に応じて対応できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月の訪問理容や幼稚園等の慰問などの行事を楽しみにしている。また地域の祭りなども積極的に参加し、交流できるよう支援している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は基本的に家族対応だが、対応が難しいときには、シルバー人材センターを利用しお互い情報共有できるよう心がけている。歯科往診もある。	かかりつけ医の受診は、家族が対応している。家族の対応が困難な場合は、シルバー人材センターを利用している。受診時は、健康状態を情報提供している。歯科の往診も利用している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員に相談、助言ををもらえる体制となっており、利用者の適切な受診を支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院、退院時に情報提供や医療連携担当者と面談し、早期退院できるよう連携に努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化対応に関する指針」を策定したが、医療連携がまだ十分とはいえない状態にある。	「重度化対応に関する指針」を策定している。医療連携がまだ十分とはいえない状態にあるが、家族の希望に添い、ホームで出来る限りのケアを行い、医療機関に入院した利用者もいる。今後、看取りの研修会への参加や内部研修(会社の看護師)を予定している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	隣接する特養の救命講習に参加している。また急変時対応マニュアルがある。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を実施している。5月は夕方にはじめて訓練を実施し、連絡網で職員を招集した。反省点や気づきが多々あったので次回につなげたいと考えている。	年2回、避難訓練を実施し、消防署の指導を得ている。夜間想定訓練の際の避難路の段差、両手が塞がった場合のライトの扱い等の課題を検討している。隣接の特養との合同訓練を予定している。	夜間想定訓練を実施し、課題を把握しており、今後は、実際の暗さの体験等、実践的な訓練実施を期待したい。その際、地域や隣接する特養等との連携・協力等についても検討されたい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自分が言われて嫌な言葉遣いはしないよう、思いやりを持ち、声のトーンなどに気をつけている。特に排泄介助時は対応に注意している。	事業所として、スピーチロックについて心がけて取り組んでおり、大声での声かけや自分が言われて嫌な言葉遣いに注意している。また排泄・入浴等の介助時には、利用者の羞恥心にも配慮し対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を傾聴し、自己決定ができるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意向を聞きながら、一人ひとり個々のペースに合わせた過ごし方ができるように支援している。入浴拒否などに対しては、時間を変更したり、別の日にずらしたりして対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容や馴染みの美容室を利用している。外出の際には、利用者にとの服がいいか選んでもらい、おしゃれできるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材をメニューに取り入れ提供している。また、ミニ畑でトマト等栽培して収穫の楽しみを持てるようにしている。野菜の皮むきやゴマすり、食事の下膳や食器拭き等の手伝いを一緒にしている。	昼食・おやつ・夕食は、ご飯・味噌汁を各棟で準備し、他は調理専門の職員が2棟分を作っている。利用者は、食材の下ごしらえ・食器拭き等手伝っている。節分では鬼の模様にとり、行事に合わせた工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各利用者の食事量、水分量を記録し、無理なく摂取できるよう努め、健康管理に役立てている。また調理を工夫し、食べやすいように提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、欠かさず、口腔ケアができるよう準備し、声かけしている。必要に応じて介助を行い、磨き残しをチェックしている。また歯科往診を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様毎の毎日の排泄記録をつけ、パターンを把握し、さり気なく声かけし、トイレ誘導している。	個々の排泄記録でパターンを把握し、トイレに誘導している。自立の方もほぼ半数おり、生活機能の維持を支援している。難聴の方には、ジェスチャーで誘導する等、周囲に気づかれないよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量に気をつけ、軽体操や散歩など身体を動かすよう働きかけている。また主治医と連携をとり、服薬コントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前にバイタルチェックを行い、体調を伺ってゆっくり入浴できるよう支援している。拒否する利用者には、無理強いせず入浴時間をずらすなど、希望をに沿うよう努めている。	月曜日から土曜日まで入浴できる準備しており、利用者は週2回入浴している。拒否される方は、翌日に変更するなど柔軟に対応している。入浴は、身体観察や会話の機会としている。自立できている方にも身体観察のため、見守りしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムに合わせ、自由に休息できるよう支援している。家から持参した枕など安心して眠れるよう環境にも気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報ファイルは、職員が内容を把握できるよう目につくところに置いている。誤薬や服用忘れなどないよう複数の職員がチェックする体制をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食後の下膳や家事手伝いなど役割を持ち、張り合いが持てるよう支援している。また、花壇や畑の手入れ、ミニドライブなどで気分転換をはかっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に出かけたり、ドライブで外食してきたりできる範囲で外出を支援しているが、なかなか個々の希望には添えていない場合がある。	天気の良い日は散歩や花壇の手入れに出かけている。全員でドライブ(花見や紅葉狩り等)や2~3人での個別ドライブを実施している。個別ドライブでは、買い物の帰りに自分の家の前を通ることもある。通院時家族との外食を楽しみにしている方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が難しいため、事務所で管理しているが、外出の際には、小遣いを持ち、個々に買い物ができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話は制限せず、いつでも連絡ができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	障子を開けたり、天窓から外気を入れるなど環境に配慮している。また季節の花や行事の写真などホールに展示し、利用者とのコミュニケーションに役立てている。	広い共有のホールは、テレビ・ソファ・食卓が余裕を持って配置され、利用者は笑顔でゆったり寛いでいる。洗面台には、職員が持参した季節の花が飾られ、行事や個別ドライブの写真を掲示しており、それぞれの棟の個性が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間に長いすやソファを配置し、利用者同士が思い思い時間を過ごせるよう環境づくりをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの物や写真など持参し安心できるよう工夫している。	居室には、エアコンが設置されている。入居時に、テレビ、小箆筒、いす等馴染みの物や家族写真を持参している。両親の位牌を置かれている方もいる。室内は清潔に保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや移動経路の安全に配慮している。トイレの表示や浴室にはのれんをかけたり、工夫している。また両ユニット間を行き来できるよう開放している。		